

一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行する

聖書：エペソ 2:15, 4:22-24, コロサイ 3:10-12, ピリピ 1:8, ピレモン 7, 12, 20 節

- I. 召会、キリストのからだは、一人の新しい人であり、神の永遠の定められた御旨を完成します——宇宙的な、団体の神・人——エペソ 1:9, 11, 3:9, 2:15-16, 4:22-24, ローマ 8:29, II テモテ 1:9 :
- A. 神が人を創造した目的は、団体的な人を得て、彼を表現し、彼を代行することでした。最終的に、一人の新しい人としての召会は、神の意図の中の団体的な人です。この新しい人は、神を表現し神の敵を対処するという、二重の目的を完成します——創 1:26。
- B. 一人の新しい人はキリストのからだと等しいです。キリストとわたしたちは共に一人の宇宙的な人を形成します——エペソ 2:15-16, コロサイ 3:10, 15。
- C. 一人の新しい人は、キリストによって十字架上で二種類の材料（贖われた創造された人と神聖な要素）をもって創造されました。十字架上で、キリストはこれらの材料を一緒にして、新しい人を生み出しました :
1. 新しい人を創造することにおいて、まずわたしたちの天然の人はキリストによって十字架につけられ、それから古い人を除き去ることを通して、キリストは神聖な要素をわたしたちの中へと分け与え、わたしたちを新しい実体とさせました——ローマ 6:6, II コリント 5:17。
 2. エペソ第 2 章 15 節の「ご自身の中で」という句が示しているのは、キリストが一人の新しい人の創造主であっただけではなく、一人の新しい人が創造された領域、また本質でもあったということです。
- D. 主の回復の目標は、一人の新しい人を生み出すことです——エペソ 4:24 :
1. 主が彼の回復の中で行なってきたこと、また今行なっていることは、命またパーソンとしての彼ご自身をもって、一人の新しい人を生み出して、神の表現とさせることです——エペソ 3:17 前半, コロサイ 3:4, 10-11。
 2. 一人の新しい人は、神の王国をもたらし、地上に王なるキリストの再臨をもたらします——啓 11:15。
- E. 一人の新しい人としての召会の中で、キリストはすべてであり、すべての中にいます——コロサイ 3:10-11 :
1. 一人の新しい人の中には天然の人はおらず、天然の人はあり得ず、天然の人に地位は与えられていません—— 11 節 :
 - a. 多くのさまざまな種類の人々が一人の新しい人を形成しますが、すべての人はキリストの一部分です。もはや天然の人はいません。
 - b. 一人の新しい人の中には、ただ一人のパーソン、すなわち、すべてを含むキリストがいるだけです—— 2:17, 3:4, 11。
 2. わたしたちが有機的な過程を通してキリストで浸透され、満たされ、飽和され、彼によって置き換えられるとき、一人の新しい人は出現します—— II コリント 3:18 :

- a. 新しい人は、キリストがすべての聖徒の中で、わたしたちに飽和し、わたしたちを置き換え、ついにはすべての天然の区別が取り除かれてしまい、すべての人がキリストで構成されるに至ります——コロサイ 3:11。
 - b. すべてを含むキリストは、有機的にわたしたちの中へと造り込まれなければならない、ついには彼がご自身をもってわたしたちの天然の存在を置き換えるに至ります——エペソ 3:17 前半、ガラテヤ 4:19。
3. 一人の新しい人の中で、キリストはすべての肢体であり、すべての肢体の中にいます——コロサイ 3:11 :
- a. わたしたちの中に住んでいるキリストは、一人の新しい人の構成要素です——1:27、3:11。
 - b. キリストは新しい人のすべての肢体であるので、新しい人の中にはいかなる種族、国籍、文化、社会の身分にも地位がありません——11 節。

II. わたしたちは、一人の新しい人の感覚の中で、召会生活を実行する必要があります——コロサイ 3:10-11、エペソ 4:23-24、ピレモン 1-2、10-19 節 :

- A. コロサイ第 4 章 7 節から 17 節には、一人の新しい人の啓示と一人の新しい人の感覚の実例があります :
1. コロサイの聖徒たちもパウロも、彼と共にいた人たちも、実際的に一人の新しい人の肢体であり、一人の新しい人の感覚を持っていました。
 2. 手紙を読むことに関するパウロの言葉は、ラオデキヤに在る召会とコロサイに在る召会の間に、何の違いもなかったことを証明します。彼の言葉は、交わり、一、調和、親密な接触を暗示します——16 節。
 3. 国籍、種族、階級のすべての違いにもかかわらず、地上には実行的に、キリスト・イエスの中で創造された一人の新しい人がありました。たださまざまな都市に地方召会があっただけではありません。真に実際的に一人の新しい人がありました——エペソ 2:15。
- B. もしわたしたちに一人の新しい人の感覚があるなら、さまざまな国のすべての地方召会は一人の新しい人であることを認識します——エペソ 2:21-22。
- C. ピレモンへの手紙は、コロサイ第 4 章の継続と考えられており、新しい人の中で信者たちの身分が同等であることの実例と考えられるべきです——ピレモン 1-2、10-19 節 :
1. オネシモとピレモンの事例は、新しい人の中ですべての信者が同等の身分を持っていることを説明しています。
 2. 信者たちの間の社会的な地位や身分の区別は取り除かれています。なぜなら信者たちは、彼らの命であるすべてを含むキリストで構成されているからです——コロサイ 3:4。
 3. 神のエコノミーの実行において、すべての社会的な地位や、種族と国籍の違いが飲み尽くされることは、極めて重要です——10-11 節。
 4. もしわたしたちが、信者たちは新しい人の中で同等の身分を持っていることを見るなら、わたしたちの間には、社会的な地位、国籍、種族に関して何の問題もないでしょう——I コリント 12:13、ガラテヤ 3:28、コロサイ 3:10-11。

5. 信者たちの同等の身分とは、愛の事柄であり、この愛は信仰から来ます。新しい人の中で、信者たちは信仰の中で互いに愛し合います—— 14 節. テトス 3:15。

Ⅲ. 一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行するために、わたしたちはキリスト・イエスの内側の各部分（心の深み）の中に生き、キリストの心の深みをわたしたち自身のものとする必要があります——ピリピ 1:8. コロサイ 3:10-12. エペソ 3:16-17.

4:22-24 :

A. 内側の各部分が表徴するのは、内側の愛情、優しいあわれみ、同情です——ピリピ 1:8. 2:1. コロサイ 3:12。

B. キリストは人として、人の内側の各部分とそのさまざまな機能を持っていました。キリストの内側の各部分の経験は、彼の思い、感情、意志、魂、心、霊における経験であり、彼の愛、願い、感覚、思想、決定、動機、意図を含んでいました——ルカ 2:49. ヨハネ 2:17. マタイ 26:39. イザヤ 53:12. 42:4. マルコ 2:8。

C. パウロは絶えずキリストの内側の各部分を経験した人でした——ピリピ 2:5. I コリント 2:16 後半. ローマ 8:6 :

1. パウロはキリストの内側の各部分において（彼の情感、細やかなあわれみ、同情において）さえ、キリストと一でした。

2. パウロは自分自身の内側の各部分を保つことをしないで、キリストの内側の各部分を自分のものとししました——ピリピ 2:5 :

a. パウロはキリストの思いだけでなく、キリストの内側の全存在を取りました。

b. パウロの内なる存在は、変えられ、再形成され、再構成されました。

c. パウロの内側の存在は、キリストの内側の各部分をもって再構成されました。

3. キリストの中にあつたものは、真実（誠実、信実、忠信）なものであつて、パウロの中にもありました——II コリント 11:10。

4. 聖徒たちに対するパウロの愛は、彼の愛ではなく、キリストの中にある愛、すなわちキリストの愛でした。こういうわけで、パウロは自分の天然の愛によってではなく、キリストの愛によって聖徒たちを愛しました——I コリント 16:24。

D. キリストを生きることは、わたしたちがキリストの内側の各部分にとどまることを必要とします——ピリピ 1:21 前半, 8 :

1. パウロはキリストの内側の各部分を経験しました。彼はキリストの内側の各部分の中でキリストと一であり、聖徒たちを恋い慕いました—— 8 節。

2. パウロは天然の内なる存在にある生活をしませんでした。彼はキリストの内側の各部分にある生活をしました。

3. キリストの中にある人になろうとするなら、わたしたちは彼の内側の各部分の中に、彼の柔和で細やかな感覚の中になければなりません——ヨハネ 15:4。

4. キリストを生きることは、彼の内側の各部分の中に住むことであり、そこにおいて彼を恵みとして享受することです——ピリピ 1:8. 4:23。

E. パウロはキリスト・イエスの内側の各部分を自分自身の内側の各部分とし、キリストのからだであり、また一人の新しい人である召会を顧みました—— 1:8. コロサイ 3:10-11 :

1. パウロは、キリストの感覚を自分自身の感覚とすることによって召会を顧みまし

た。召会に対するキリストの感覚は、召会に対するパウロの感覚となりました——Ⅱコリント 2:4. 4:12. 11:2. 12:14-15. コロサイ 1:24。

2. わたしたちはパウロのように、キリストの感覚をわたしたち自身の感覚とすべきです。これは、わたしたちが一人の新しい人の中で団体的に生活し、一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行するのに、最も必要なことです——ローマ 12:15。

F. ピレモンへの手紙には、キリスト・イエスの内側の各部分の中で生きた一人の新しい人としての召会生活の絵があります——ピレモン 7, 12, 20 節：

1. パウロの内側の愛情と深い同情は、オネシモと共にピレモンの所に行きました——12 節。
2. もしわたしたちがキリスト・イエスの内側の各部分の中で生きるなら、一人の新しい人の感覚の中で召会生活を実行します——ピリピ 1:8. コロサイ 3:10-12。
3. わたしたちは一人の団体の新しい人の一部分となっているので、キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きることによって新しい人の感覚を持つ必要があります。それによって、わたしたちはキリスト・イエスの内側の各部分の中に生きることによって新しい人の感覚の中で召会生活を実行します——10-12 節. I コリント 12:25-26. ローマ 12:15. ピリピ 1:8。